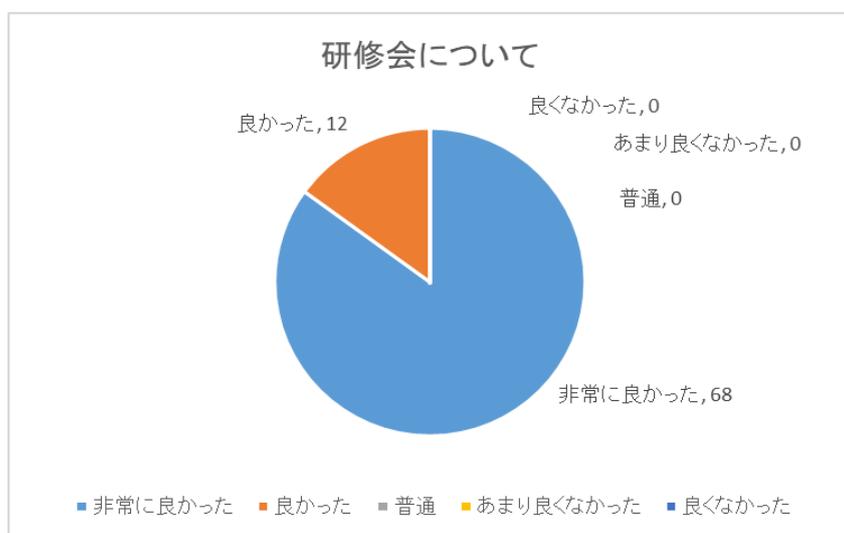


研修報告書

1. 日時：令和3年10月3日（日） 10：00～12：30
2. 場所：Web 研修会
3. 研修会：令和3年度 一般社団法人 愛媛県歯科衛生士会
第4回第5次生涯研修制度 専門研修
4. テーマ：糖尿病と歯周病の関係
5. 講師：にしだわたる糖尿病内科 院長 西田亙先生
6. 参加人数： 95名
7. 参加者アンケート集計結果
回答率 84%



8. 感想 ※アンケートフォームより抜粋

- ・糖尿病について歯科衛生士として知っておくべき基本的な知識に加えて、そこから保健指導で使える具体的な内容まで満載であり、とても勉強になりました。
- ・糖尿病、糖代謝異常に対しての歯科衛生士の関わり専門的知識と患者様の TBI 時間の伝える方を日頃より学び歯を衛り生きるを衛る歯科衛生士でありたいと思います。
- ・日々の業務で歯周病継続治療を歯科衛生士が行っていますが、歯周病の継続治療の重要性を再確認させて頂けた研修でした。明日から患者さんの5年後 10年後の健康をイメージして歯周病継続治療を行い 西田先生の研修で得た知識をいかして患者さんに向き合いたいと思います。

9. Q&A

Q1. 糖尿病(1型も含めて)の口腔ケア時、歯肉を軽く触るだけでも痛みを強く感じる方々がいます。逆に歯周病重度でも痛みを感じない方がいると感じております。

痛みと糖尿病の関係についてエビデンス等ございましたらご教示賜りますようお願い申し上げます。

A1. 痛みの閾値については、健常人でも個人差が大きいため「特定の疾患において痛みには差があるのか？」という

解析は極めて難しいものと思われまます。痛みに関して臨床的に重要な点は、糖尿病で「神経障害」が進行した患者さんの

中には、痛覚を失ってしまう方がいらっしゃるという事実です。このため、糖尿病患者さんに対して観血的処置を行った

際、「痛くなったらご連絡くださいね」という声かけは危険であり、必ず数日後に再診し、患部の状態を確認するように

しましょう。

Q2. 先生がおっしゃっていた11月の配信は私たちへもアナウンスしていただけますか。

Q3. 11月の大ニュース気になります。愛媛県歯科衛生士会や日本歯科衛生士会のHPで発表ありますか？

A2.3 Pg菌に対する「ジンジパイン阻害薬」が、アルツハイマー型認知症を改善するかどうかという、臨床試験結果は

11月中旬に発表されます。この研究が最初に報告されたのは、2019年1月ですが、今のところ日本の学会や歯科衛生士会は

ジンジパイン阻害薬について言及していないようです。今回、歯科関係者だけでなく、広く国民にこの事実を届けたいという

思いから、Peatixというサービスを通じて、「オンライン健口セミナー」を始めることにしました。

11月に臨床試験結果が発表され次第、本セミナー内でその詳細をわかりやすく紹介する予定です。

<https://peatix.com/group/11592599>

Q4. 糖尿病の患者さんがリコールで11月1日来院してます。初診時と比べ磨き残しも少なくなってきましたが、a1cが下がらない。食に問題があると思いますが中々それを話できません。何から話したらいいのでしょうか?教えて下さい。

A1. 私は、糖尿病患者さんの血糖値を悪化させる最大の原因は「間食と夜食」にあると考えています。講演でもお伝えした

通り、患者さんの帰宅時間や夕食時間などを通して、仕事や生活環境を探り、共感を寄せながら「寝る前の口腔ケア指導」を

通して、間食・夜食を減らすことができれば、きっと体重と血糖値は下がると思います。